

プリムラ山の会(通巻80号) 2010年06月02日発行 発行人:大坪邦久
編集/デザイン:ミズノデザイン 発行所:東京都八王子市散田町3-38-6B
primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>

プリムラ山の会 *Primula* PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN



クーロワール64	002
In A Shot (岡 孝男)	003
80号の特集 山から下りたら、食べたいもの、飲みたいもの。...	004
雪のバリエーション2010その1 阿弥陀南稜&妙高 (市瀬 江利子)	005
シャモニー・バレブランシュの旅 (山里 守広)	008
赤岳 西壁主稜 (平 真里)	012
山ちゃんがスイスにやってきたの巻 (上甲 ゆき)	014
妙高山 (平 真里)	021
雪のバリエーション2010 その2 一ノ倉尾根 (市瀬 江利子)	026
北ア:焼岳 [山岳スキー] (北原 浩平)	024
雪のバリエーション 2010 その3 杓子尾根 (残雪期) (市瀬 江利子)	026
積雪期のマイナールートも楽しいワンU^ェ^U 一杓子岳杓子尾根の巻一 (初鹿 裕康)	028
杓子尾根 (平 真里)	030
白馬杓子岳JPから長走沢 [山岳スキー] (北原 浩平)	033
雪のバリエーション 2010 その4 小窓尾根～早月尾根 (残雪期) (市瀬 江利子)	037
13年ぶりの小窓尾根 (初鹿 裕康)	042
北ア:日本オートルート敗退記 [山岳スキー] (北原 浩平) ..	044
山行一覧 (2010年1月～5月4日)	047
編集、後記。	048

12月27日のトレイルラン終了間際、今年2回目の転倒で左手甲を痛めてしまう。

30日に15km走り、2009年の走り納めとなる。

昨年は、ランもクライムも成果がなかったけど、2010年は少しは結果が出るようにと願いを込めて、1月1日、西荻窪4時35分の高尾行きに乗る。

午後じゃないですよ。朝です。高尾山の初詣じゃないですよ、高尾から日向和田まで走ります。高尾駅に5時15分着、ストレッチしてバナナ食べてから、30分に走り始める。

このコースは、前に2度、夏に走っているので、道に迷う心配はない。前半は、出だしから上り下りの連続で、秋川街道に下ってから、長い緩やかな上りが続き、新小峰トンネルから下って上って五日市駅に。後半は、駅から上りになるが、最大の山場は梅ヶ谷峠の上りだ。後は下って多摩川をわたりゴールの日向和田駅に着く。

距離21km。気温はかなり低く、30分走っても暖まらない。何しろ寒いけど、真ん丸の大きな月に励まされながら走っていると、日が出たのか明るくなる。秋川街道に出ると、五日市の山並みの上に大きな月、後ろから日の光が射して来て、非常に気分がいい。

あきる野市に入ってから、バナナとみかんを食べ、五日市駅前から一気に上り坂へ、つるつる温泉入り口をすぎて300m位走ったら、白山神社入口とあったので初詣でもしようと思い行ってみたら、かなり急な坂で(家で測ったら500mあった)、おまけに最後は急な石段で、いや、まいった。

梅ヶ谷峠への上りは、道路が凍っていたりして、苦しくて、ああ、次のコーナー曲がったら、歩こうかと考えていたら何とか着いた。ちょっと長く感じた下りを終え、待望の日向和田へ7時45分着。

家に帰り、風呂に入っても冷えた体は、一日戻らなかった。

1年の計は元旦にあり。言葉どうりの年になるかどうか？クライマー(?)として、最強の敵は自分自身だ。

染まる雪稜 鳥兜山・白嵩

2010.3.12 撮影



豪雪で知られる秋山郷。2005年(?)の冬は、この地方の幾つかの集落が孤立し、自衛隊などの出動もあった。この時期に岡も訪れたが、津南町でも雪の捨て場がないほどの降雪で、鳥兜の雪稜はキノコ雪の発達が凄く、まさにヒマラヤ麓の雪壁は圧巻であった。

今冬は里雪であるのか、新潟市で何台かの車が吹雪のため動けなくなり大騒ぎしたが、ここ秋山郷では大雨だったそうだ。

明け方まで夜空の撮影。苗場山が東にあるため朝一番の陽光は射さないが、それでも低い角度から入射し徐々に色づいてくる。見慣れてしまったのか？それほどの感動もないままシャッターをきる。どう工夫をすれば、急峻な雪壁を表現できるのだろうか？妙案は浮かばない。

雄山閣の露天風呂に2時間くらい浸かり、光が動

き影のできるのを待つ。フィルムをモノクロに替え三脚をセット。

現像が揚りプリントしてみると以外にも迫力があり、カラー写真に慣れた目からするとすごく新鮮だった。物事を見、どう判断するかは、どんな尺度・基準で観るのかと言う事になる。人間社会と共通しているのかもしれない。

1960年代には登られていた壁も、今では登る人もいないらしい。冬場のアプローチが変則で、正面からは急峻に見えるが、秋山郷の奥(側面)から見ると意外と傾斜はきつ過ぎはしない。まして多量の雪が落ちないでいられるのは、灌木と草付きが多いのと、傾斜が関係しているものと思われる。それでも谷筋の雪崩は大きく、郷に響き渡る。眺める山としては一の倉と双壁だろう。

もう登れなく登らなくなった私だが、誰かトライして欲しいと思っている。

山から下りたら、 食べたいもの、飲みたいもの。

最近では山で本格的な料理を食することが多いので、下山してから「食べたい」という料理は特に無いです。強いていえばある特定の店のあれが食べたい、という料理はあります。例えば、あるキッチンレストランのカツカレーが食べたい。他の店のカツカレーだと満足感を得る事がない。(Y)

最近では白いお米が食べたい。
暖かいご飯が食べれば、定食でも、丼ものでもOK。(E)

ていうか山じゃないからなあ。最近で飯食って帰らないし。食べられるなら昭和件のソースカツ丼か、ふじもとの焼肉定食が食べたい。それより一刻も早く家に帰ってビールが飲みたい。(M)

[飲みたいモノ]牛乳

[食べたいモノ]生野菜、刺身など生モノ。そば。

昨年の夏は、下山後、大量に生野菜を摂取しました。

そばの魅力は、醤油味のつゆ(塩分が欲しい)。

逆に食べたくないのは菓子パンです。(T)

高校の頃は、よくファンタとかの1.5リットルをよく飲んでた。大人になったらビールかな。

一番気に入っていたのは水上駅前の鍋焼きうどん、半ライス付。谷川の帰りは必ず寄っていました。

最近何か食べたいって思いがないのは、自分の舌が肥えたのか？山の中の食事がおいしいからなのか？まあ、山行って体重が減らないで増える人もいるみたいだからなあ…。(H)

昔、真夏の暑い日、

黒戸尾根から甲斐駒を下山したあと、無性にサラダが食べたくなり、お店で特注で大皿2皿たいた。生野菜を欲するよね(K)

私の全盛期は、谷川に行った帰りに水上駅前の店で「鍋焼きうどん」と「下山祝い(ビール)」か「風邪薬(日本酒)」でした。今では、お店も無くなってしまいましたし、電車ではなく車で行く時代になったためか、「そば」か「とんかつ」か「寿司」ですね。山行中は食べられない体質も、下山すれば20代の食欲でガツガツ食べます。(A)

雪のバリエーション 2010 その1 阿弥陀南稜&妙高

市瀬 江利子

1, 阿弥陀南稜

山域:八ヶ岳

日程:2010年1月09日(土)~11(月)

1/25000地図: 八ヶ岳西部

メンバー: 初鹿裕康、市瀬江利子

入会したころ、山ちゃんと一緒にいった阿弥陀南稜。あのときは、天気と抜群に恵まれて、素晴らしい山行だった。ビールを期待して行った行者小屋が閉っていて、山ちゃんがとても残念がっていたことを思い出す。今回は、阿弥陀南稜から縦走し、西岳北西稜から下山の予定だったが、一日の停滞を交えたため、御小屋尾根を下ってきた。

2010/01/09

駐車場(10:30?)~稜線上(12:30)~青なぎ(15:30)

今回は旭小屋のほうから登ってみようと、船山十字路から右の車道に入り、カーブのところを左の林道へ。しかし、途中から車道が悪く断念。引き返して、前回通り広川原へ向かう。林道の途中から踏み跡を追って、急登を登りきるとすぐに尾根上に出る。尾根上に登るとぼつちり立派な看板が立っていて、一般登山道のようになっていた。たしか前に来た時はこういった看板は無かったはず。難しくない稜線を、快適に登っていく。青なぎの手前から、良さそうなテン場にはテントが張られていくようになる。私たちは最終組のよう。青なぎのすぐ手前、最後のテン場にテントを張る。阿弥陀の西面が見えていい場所だった。

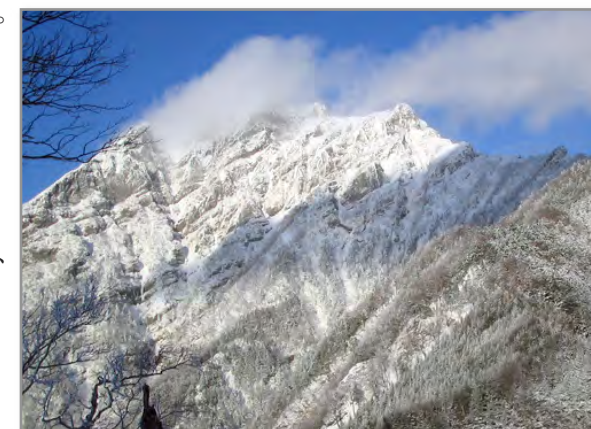


2010/01/10

青なぎ停滞

予想通り、天気が悪い。風が強く視界もない。お昼近くまで様子を見たが、せつかく南稜に登るなら、天気が良い時がいいということで、縦走を諦め、停滞することに。久しぶりの停滞は結構楽しい。つまみを作りつつ飲み、ゆっくりと過ごす。

お昼ごろまでに、数パーティは登っていったようだ。2時頃になると、視界が開け始め、夕方には、青空の中、夕日を受けた阿弥陀岳を眺めることができた。



青なぎから見た阿弥陀南稜

2010/01/11

青なぎ(6:00) ? 阿弥陀南稜(8:30頃)–御小屋尾根–舟山十字路(12:00)

暗いうちから出発。2564mピークを超える
と風が強く吹き付ける。ちょうど地平線が明
るくなり、天狗尾根のシルエットが絵になる。
ピークから少し行ったコルに2パーティがテ
ントを撤収していた。P3を超え、バンドのト
ラバースがちょっと嫌らしく緊張する。向こ
う側にガバがあることを知っていると、思い
切れる。その後ルンゼに。出だしだけ、ちょっ
と氷化しているようだったが、行けそうだった
ので、ノーザイルで。前回はフィックスがあ
ったと思う。途中一箇所ピカピカのボルトが
埋め込まれていた。その上部が少し傾斜がき
つく、悪かったが、そのまま右へ直上。稜線上
へ再び出て、ルンゼを右に回りこみ(ここも確
か前はフィックスがあったように記憶してい
る)、ちょっとした岩場を登ると頂上へ飛び出
た。いうまでも無く、素晴らしい景色。だが、風
が強く早々に御小屋尾根へと向かう。最初の
出だしを心配していたが、雪の状態もよく、問
題無く通過。御小屋尾根は下り易く、ぽかぽか
陽気の中、舟山十字路までたどり着いた。

阿弥陀南稜は、本当にいいルートで、(手軽
でと言っではいけないかもしれないけど)、何
度行ってもいいと思う数少ないルートです。

2, 妙高 (山スキー)

山域: 妙高

日程: 2010年2月20日(土)–21(月)

1/25000地図: 赤倉、妙高山

メンバー: 初鹿 裕康、市瀬 江利子、平 真理

2002年に登れなかった妙高にリベンジの
山行。あの時は前山からの素晴らしいパウダ

ースノーが楽しめた。しかし、今回は雪が重く、
山スキーはなかなかベストなコンディション
では滑れないと痛感。今回、平ちゃんはわかん
での参加です。

2010/02/20

赤倉温泉駐車場(12:00)–大谷ヒュッテ(17:00)

朝出にしたら、渋滞に巻き込まれ思いのほ
か時間がかかったの到着。赤倉温泉から妙高
高原スカイケーブルを使って一気に高度を上
げる。前回は前山経由でヒュッテへ向かった
が、今回は夏道沿いにいったん、沢筋へ下りて
登り返した。登り返しは結構傾斜がきつく、下
部では、平ちゃんがせっかく登ったところを
「あーっ」と10m近く滑り落ち、振り出しに戻
っていた。登りきったところで、私とはっちゃん
はシール登行に切り替える。その後、トレ
ースを追ってトラバース気味にいくが、途中何
度か見失い、結構大変。雪も降り出し、暗くな
る直前に大谷ヒュッテへ辿り着く。ヒュッテ
は前回同様、独占状態。布団や毛布もある素敵
な小屋で、宴会をするが、平ちゃんはあくまで
もお茶で参加。

2010/02/21

大谷ヒュッテ(6:30)–岩場基部(10:00)–妙高山
頂(11:30)– 赤倉温泉駐車場(16:30)

今日は快晴。昨日積もった雪をラッセルし
ながら、山頂へと向かう。基部まで思ったより
も時間がかかる。基部でスキーをデポしアイ
ゼンに履き替える。岩場を直上しようと試み
るが、悪そうだったので、左側から捲き、急な
ルンゼをブッシュを掴みながら登り、岩場上
部の稜線上へと出る。稜線を暫く登るとそこ
は頂上。なんとか、12時前に頂上へとたどり
着けた。頂上からは外輪山が見渡せる。素晴ら
しい景色だ。前回敗退したときは、頂上までも
っと近く簡単なイメージを持っていたが、思
っていたよりも長く難しかった。記念写真を



ヒュッテから見た妙高山

撮り下山。

下りは行きのルンゼからではなく、左の雪
壁を降りる。なるべく雪崩ない斜面を大きな
木に沿って降りていき、下部で雪の斜面をト
ラバースし岩場の基部へ。雪が少々腐ってき
ていて、上部はバックステップで降りた。外輪
山を見ると、スノーボーダーや山スキーヤー
が急な斜面を滑り降りているのが見えた。こ
こで、二人はスキーに履き替え、気持ち良く滑
走をする予定だったが、昨日降った雪が重く
なっており、苦労する。腿に付加がかかり、と
にかく疲れる。ヒュッテからは来た道を行く

が、私のスキーが全く滑らなくなっていまい、
板の後ろを見ると、雪がべったりくっついて
しまっている。はっちゃんにワックスを借り
て、なんとか少しはましになる。ここから、ゲ
レンデへ戻るルートを探すのに苦労し(前山
からのスキーヤーのトレースが多すぎて、行
きのトレースを見つけれず)、結果、かなり
急なブッシュの斜面を斜滑降と、横滑りで降
りるはめに。ここが今回一番の難関だった。ま
た、ここからゲレンデへの登り返しがつらか
った。平ちゃんは、ぎりぎりケーブルの時間
に間に合い、一安心。私たち二人は疲れた体
にむち打って、ゲレンデを滑って帰りました。



大谷ヒュッテをバックに



頂上にて

シャモニー・ バレーブランシュの旅

山里 守広

今回のシャモニー・バレーブランシュの計画は、元プリムラ山の会の会員であった由紀ちゃんが、たまたまスイスから日本に遊びに来ていた時に「今は仕事をしてないのだから、この際一緒にシャモニーのバレーブランシュに行きましょうよ」というメールが切っ掛けでした。確かに今は時間が沢山ある。そして、今の時間がある時にシャモニーへ行かないと、二度とチャンスが訪れてこないのではないかと思います、早速、由紀ちゃんに同行の意思を申し伝えたのであった。

2月14日

今日は最大の目的であるバレーブランシュを、きちっと滑れる為の前哨戦としてキャトロ・テットに行くことになった。

キャトロ・テットに向かう車の中には、由紀ちゃん、アランさんと、私を含む3人である。アランさんはスイスの方だけに、当然ながらスキーの技術は上手であろう。由紀ちゃんとは今まで一緒に滑った記憶がなかったせいか、技術的にレベルが高いのかよく判らない。初ちゃんの話だと、由紀ちゃんはかなり上手になっているらしい、という話は聞かされていた。もし、そうだとしたら、私が3人の中で『お荷物』という存在になる。これは私にとってかなりのプレッシャーになる。せめて日本に居る時に、2,3回はゲレンデスキーか山スキーに行って、足慣らしでもしておけばよかった、と後悔の念が強くなってきた。

結局、今シーズンの初滑りがアラビス山群のキャトロ・テットになってしまった。

後でキャトロ・テットの滑降斜面が非常に難しいということを知らされる。

登山口の林道から雪が付いていて、我々はスキー板にシールをセットして歩きだした。林道の中を歩いている時は多少の雪が降っていて、その事で上部の状態が少し心配になって「由紀ちゃん、山の上部はどうなっているかな？」と質問すると「上部は驚く程天候が良いから心配する必要無いわよ」と自信たっぷりに答えた。確かに由紀ちゃんが言っていたように、ドラン小屋から先は、天候は快晴に変わり、我々の行く手の先に、穂高を思わせるような岩壁が迫ってくるようだ。

更に登って行くと、ポアント・ペルセー(2750メートル)が迫力満点の存在感で聳えていた。由紀ちゃんの話だとポアント・ペルセーは上部に穴があいていて、天候が良い時に日が射すらしい。



ポアント・ペルセー (2750m) をバックに由紀ちゃんと私

登るルートはポアント・ペルセーから派生する尾根に出て、左にルートを求め、ジグザグに高度を稼いで行くと、ピークは間も無かった。ピークには思ったより山スキーヤーが多く、中には犬を連れてきたグループもいた。天候も良く写真撮影にはこの上ない絶好の場所だ。「もし、この場所に岡さんがいたらどんな気持ちでいたのだろう」ふと、そんな事を考えるのであった。特にポアント・ペルセーは人気が圧倒的で、ポアント・ペルセーをバックにシャッターを押す人が多かった。勿論、私達も撮りました。

写真撮影もお昼も済んでいよいよ出発である。いざ滑る段になって、これから滑降するルートを見て、かなりの急斜面で且つ強力なオフピストに恐怖感を覚えた。そう思った地点から『恐怖』に飲まれているので負けである。

スキーは『攻め』が必要だというのは判っているのですが、その日は恐怖の方が強かった。実際の滑りは予想通り惨憺たるものであった。ターンをするたびに転びまくった。転んで板が外れる事もあった。

正に本格的なオフピスト(整地されていない斜面)に対し、アンティークなスキー板で対応しようとしたのだから、かなりの無理があったようだ。

先に滑った由紀ちゃんには、下で長い時間待たせる破目にさせ、アランさんは、少し上から私の滑りを見守ってくれていた。私は何度か滑っては転び、というパターンを繰り返し、何とか安全地帯に出たときは、正直言ってほっとした思いであった。

2月15日

昨日の不甲斐ない自分の滑りを払拭する為に、由紀ちゃんと二人で、クルーサというスキー場に向かう。クルーサの街は思ったより、建物が多かった。観光客やスキー客が賑わい、駐車場所を探すのにも時間がかかった程であった。

今日は普通のスキーゲレンデということで、ガンガン滑った。明日に控えているバレブランシュを、一緒に滑る人達に迷惑を掛けずに滑りたい、という気持ちが強かったのだ。

その日は、由紀ちゃんの協力で、何とか自分なりのスキーが出来て満足であった。少し自信を取り戻した気分になった。

しかし、明日のバレブランシュが昨日のキャトロ・テットのようなオフピストの斜面だったらどうしよう、ふとそんな悪いイメージが頭をよぎった。

2月16日

待ちに待った今日はバレブランシュを滑る日である。午前8時にシャモニーの駅に集合という事で、由紀ちゃんと7時前に家を出発する。

駅には15分前に着き、早速、自己紹介を行う。由紀ちゃんは今回のガイドを10年前からの知り合いという事で、私は何だか安心してしまふ。当然のようにアンティークのスキー板を用意してきた私は、今回一緒に滑るメンバーの笑い種となった。

エギュー・デュ・ミディ(3842メートル)には、途中のプラン・ド・レギュー乗り換え、最後は吊り上げられるようなロープウェイで到着した。エギュー・デュ・ミディの展望台からは

快晴のため、辺りの山を見渡す事が出来た。近くにモンブラン、遠くにマッターホルンの雄姿が望まれた。

展望の楽しみも早々に切り上げ、スキーの準備に取り掛かる。ガイドの指示の通り、股にハーネスをセットし、アイゼンも兼用靴に装着する。そして、身体に取り付けられたビーコンがONになっているか確認をする。準備完了後、直ぐに出発である。ストックはガイドが全員の背負ってくれたので有り難かった。ザイルでガイドとメンバーが連結されているので怖さが半減した。スキーが履けるところまでは、ヤセ尾根にロープが設置されていて、我々はそのロープを両手で握りながら慎重に降りていった。安全な下部の平坦地に着くと、ドッと疲れた。

此の場所がバレブランシュのスタートラインである。さあ、これから長い長い全長約22キロのバレブランシュの滑降だ。

最初の斜面は緩く楽にスタートができた。一昨日のキャトロ・テットのハードなオフピストと違い、硬くもなく軟らかくもなく、私にとっては滑り易い雪質だった。私はメンバーの中で技術的に劣るので、常にガイドの次に滑るようにガイドから言われていたので、それを守っていた。

滑る人が多いせいか、雪質は平均に圧縮されていて、安心して滑ってガイドに付いて行った。しばらく緩斜面は続き、前を華麗なフォームで滑るガイドの後を、必死になって追う。滑っていて転倒だけは避けなければならない。万一転んだ場合はクレパスに落ちる可能性があり、死に直結するからだ。

由紀ちゃんと他のメンバーは、私の後を余裕綽綽と滑っているように見える。いや、実際



バレブランシュを滑り終えてシャモニーのとある駐車場にて

余裕があるのでしょう。コースの途中にセラック・デュ・ジュアンに出ると、急斜面になっていて、辺りはクレパスとアイスフォールが散在する最大の難所だ。

絶対に転ばぬよう慎重にターンを繰り返す。雪質が良いのと、私でも滑れるコースをガイドが選んで滑ってくれたので、何とか難所を突破する。タキュル氷河の上部左側にくっつくように建てられたルカン・ヒュッテで、お昼を摂る。ビールが飲みたい心境なのだが、まだ危険が伴うコースなので、コーヒーで我慢する。

ヒュッテからタキュル氷河へのコースは、斜面の緩いところまでトラバースして滑降に入る。タキュル氷河の下部には長大な氷河であるメール・ド・グラスが待っていた。そして、コースの途中にレ・ドリユ(3754メートル)の岩壁が眼前に現れる。レ・ドリユは、何年か前に大崩落があつて、その崩れた部分が白くなっていて規模の大きさを物語っていた。

コースを下部末端まで滑り終えて、そこからスキー板を背負って、シャモニーの街に導かれる林道へ登り返す。林道もしっかり雪が付いていて快適にシャモニーの街まで滑れた。

街に到着後、メンバーの一人がワインを提供してくれて、皆で乾杯をして、怖くて楽しかったバレブランシュのスキーが終わったのを実感したのである。それも、由紀ちゃんとアランさんの積極的な協力を得る事ができたから、バレブランシュの素敵な旅が実現したのである。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

バレブランシュのスキーを共にしたガイド、メンバーとは、滑り終えて充実感を共有したように感じた。持つべきものは友である。

由紀ちゃん、楽しい思い出をありがとう。

平 真里

日程: 2010年2月14日(日)

山域: 南八ヶ岳・赤岳

メンバー: 村上、平(ほか主稜組3名)

美濃戸山荘07:15-行者小屋09:20(休)09:50-取り付き11:00-終了点

15:10-山頂15:30-行者小屋16:20-美濃戸山荘17:50

早朝出発。美濃戸山荘着7時。天気は予報通り快晴。気温は高め、週の半ばには雨も降ったという話だった。行者小屋までの道を汗だくになって歩く。登山者はあまり見かけなかった。

9時過ぎに行者小屋着。テントが撤収された跡に荷物を置いてひと休み。アイゼンとハーネスを装着。10時前に出発。文三郎尾根を辿って1時間ほど、登山道をわけて斜面を横切り、取り付きにつく。私たちが最後と思われ、踏み跡は道のようにしっかりついていて。写真でよく見るチムニーの前でフォローの準備(以降、すべてフォロー)。チョックストーンを左から登った村上さんはじきに姿が見えなくなった。ビレイ解除の声で、登り始めてみると岩の上には氷が張っていた。岩がつかめないので、肘を挟んで体を持ち上げる。巨大な岩を挟んでいる脇の岩には、アイゼンの爪あとがついていて足は乗せられるのだが、次の足場になりそうなところに届かない。あれこれ探し回っていたら、あまりにも時間が経ちすぎたようで、登ってる〜?と声が降ってきた。もう

恥も外聞もなくゴボウで登って岩を乗り越えた。はじめからこれでは、と不安が過ぎる。

2ピッチめ。ちょっと上に先行パーティがよく見える。渋滞は核心部の手前らしい。こちらの傾斜は緩く、ザックを置いて手に持っていたバイルを1本ザックにしまう。なんか心もとない。傾斜が少し出ると、踵が下がって、前爪で立てないので、進めなくて立ち止まった。お手本を示してくれた村上さんは、硬直している私にしびれを切らして、すたすた登っていつってしまった。

途中、人を避けて右脇の灌木にトラバースもして、中間の岩場に到着。隣りに別のパーティがいた。早速、声をかけられる。「みなさん、こんな条件が悪いのに、お上手ですねえ」「いえいえ、お上手なのは私ではありません」(紐で引っ張られてる猿ってこんな感じですかね。)
「リードするのが私になってしまつて。ほかにいないものですから…。」早くしろとばかりに、ロープががらがん引っ張られたので、いつまでも続きそうな会話を打ち切って慌て



中間あたり、先を行く人々

て登りに入る。

核心部の下に出た。同じ主稜組の柚木さんと、それに続く白井さんが岩の間に挟まっている姿が見えた。ここで見物、の心持ちだったが、リーダーは右にまわって登っていつってしまった。ビレイを解除して、登りは始めるが、どこをどうやって登っていったのかさっぱりわからない。いろいろ試してから、最後にロープにぶらさがってコーナーをまわったら、足場が見つかったので、攀じ登った。迷いが多くてちっとも早く登れず、疲れて息が切れてきて、気がつくともわりに人がいなくなっていた。

岩の間に空が見える。たぶん、7,8ピッチあったらしい。稜線についてロープをたたみ、首にかけてよろめきながら後に従う。風が強い。不覚にもロープを持ってもらってしまったが、

何も言えないほど疲弊していた。見慣れた赤岳山頂に着くと、ああ良かった、と安堵が押し寄せた。写真を撮ってもらって風を避けてザックを下ろす。こんな場所にカラスも舞っていた。

文三郎道から下山開始。3時半。知らないうちに、主稜へ向う分岐点も過ぎて、16時過ぎに行者小屋へ着く。テント撤収を終えたほかの方々とも合流して大休止。17時前に出発して、そろそろヘッデンでもつけようかという18時に美濃戸へ着いた。それで、暗くなる前に帰りついた、と意気揚揚とプリメールで下山報告をしたのだった。やっと行きたかった主稜に行けた嬉しさとともに、まだ登れない、という苦い気分が交錯。リーダー、お世話になりました。

山ちゃんがスイスに やってきたの巻

上甲 ゆき

日本のプリムラ山の会の友達、『山ちゃん』がスイスにやってきた。
自分の山スキー靴もスキー持参で、やる気満々の様子。
彼とは、八ヶ岳の冬のバリエーションルートでルートを間違い、
2日間山をさまよったという経験があり、その時山ちゃんはパニック
に陥る事もなく、胸までの大雪の中、落ち着いてトレースを付けて
前を歩いてくれた頼もしい山仲間である。
今回の彼のメインイベントは、シャモニーが誇る
「バレーブロンシュ(白い谷)」とよばれる、
23kmに及ぶ氷河スキー滑走らしい。

.....

2月14日、この日私たちは手始めにアラビス山群の一つQuatre T? tes(2301m) へ向かった。

ジュネーブから車で1時間、小さい村(標高900m)のはずれに車を置いて、すぐにスキーをはいて森の中へ突入。周りは真っ白で視界がわるいなあ…と思っているのも、東の間で、森を抜けたところで雲海を突き抜けて白銀と真っ青な空の世界へ突入！『わあ～、すごい！』

山ちゃんは、輝く自分を取り巻く山々の美しさと偉大さに大満足している。日本で言うなら自宅から1時間で穂高連峰に行くようなものだねと、わたしの置かれている環境に感動している様子である。

前日スイスに着いたばかりというのに、山ちゃんは標高差1400mを難なく登って来た。ところが、さすが！と、自分の山仲間を誇りに感じたのも束の間、下りのスキー滑走で『え

っ？えっ？えっ……………？！？！？！』と、わたしとマイダーリンのアラン君の目が点になってしまった。

私たちはいつもの調子で山の斜面にスロープを刻みながらおりて行き、後ろを振り返ると山ちゃんは、まだまだず～っと上のほうで、四苦八苦しているのが見え、ぜんぜん下りてこない。こっちは待っている間に、体が冷えてくる…。体がこわばって、曲がるたびにドカンと転んでいる。深い雪で転ぶと起き上がるのがまた一苦勞。まだ、半分も下りてないのに、斜面が急すぎるのか、けっこうな後傾のせいであろう、ヒザが疲れてパンパンだと、山ちゃん苦しい表情…。圧雪してあるゲレンデを滑ると、大自然のままの雪の斜面を滑るは違う。この日、30cmほどの新雪が降っていたが、午後も過ぎると雪が重くなってきてパウダースノーとは言えないコンディションになっていた。

『あちゃ～～～、これはまずいなあ～～～。氷河スキー難しいかもなあ…。』

アラン君が、ポツリとつぶやく。『この速度で、夕方までに帰れるかなあ…？』

日本では彼とスキーに行った事がなかった。第一、日本ではあの当時山スキーはそれ程やっている人がいなかったし、日本のクライマーたちは皆、スキーと山は別物と考えていたとおもう。ヨーロッパでの冬山は、完全にスキーとアルピニズムが一体化していて、スキーが上級でなければ、登山ガイドにはなれないのである。

ワカンを付けて一步一步ラッセルしながら登ると、スキー板にスキン(アザラシの皮)を付けて沈むことなく登るのでは、速度と体力消耗の点で雲泥の差がある。しかも、下りはスキーだと30分もあれば下まで降りてしまうので、気温の上がる午後の雪崩など、安全性面からみてもスキーを利用して山を楽しむのは非常に合理的なことである。

『やまちゃん、明日は、オーピスト(ゲレンデ外でのスキー)の特訓だよ！』

前日の特訓の甲斐あって、速度はないけれどオーピストもあまり転ばないように滑れるようになった。実際彼はゲレンデは問題なく滑れるのだから！シャモニーの山岳ガイド組合にバレーブロンシュの氷河スキーの6人グループに申し込んだ。

予約の際、自分たちがスキー上級者であるか、オーピスト(ゲレンデ外のスキー)を滑るのに問題ないかを厳しく何度も確認された。もちろん、山ちゃんは、上級スキーヤーとはいえず、オーピストにも慣れてはいないが、う

まくごまかした。

この氷河スキーには、3つコースがあり、一番簡単なコースだったら山ちゃんでも大丈夫だろうと思ったからだ。実際、わたしはすでに何度もバレーブロンシュを滑っているのに、快晴が続くスキーコースがたくさん付いている簡単コースは、技術的にはゲレンデとそれ程変わらない事を知っている。もし、山岳ガイドが彼の滑りを見て連れて行けないと判断すれば、私達はエグユイ・ドウ・ミディからロープウェイで下るだけの事である。一か八か…2月16日、快晴のなかシャモニーに向かった。

ガイドとの待ち合わせ場所で、今回のメンバー、フランス人の4人の気のいい男達と会う。今日のガイドは、アルメル。(なんという幸運、私はこのアルメルと10年以上の知り合いであつた！)スキーレベルの事情を話して、わたしの大事な友達を是非とも連れて行ってくれとアルメルに頼み込む。今日のコンディションなら大丈夫だろうと彼は言ってくれた。しかし……、そこに居た皆の目が、山ちゃんのスキーとビンディングに釘付けになった！！

「アルペンミュージアムから借りてきたのか？」とジョークを飛ばす人がいれば、「スキーレンタルしたほうがいいんじゃないか…？」と、心配そうに言っているメンバーもいる。

そう、そうなのである、日本には古いものを大事に長く使おうと言う風習があるように、山ちゃんも、20-30年ほど昔の古いスキーには今にもプラスチックがはずれて壊れそうなビンディングが取り付けられている。(ハッチャンのおふろのピンクのスキー。)こちらでは、

もう骨董品。いまどき、カービングしてないスキーは珍しい。

朝10時ころエギュー・ドウ・ミディ(3800m)へ登り、氷河上へ出る。マイナス15度。無風・快晴。雪もいい。眼前に飛び込んでくるモンブラン、グランド・ジョラス、流れ落ちる荒々しい氷河の姿に圧倒される。

さあ、出発だあ！

ガイドのアルメルは、山ちゃんの為にゆっくり、一番滑りやすいルートを取ってくれている。

山ちゃんは、ゆっくりと、転ばないように神経集中している様子。うーん、いけそうだ！他のメンバーも寛容で、終いには山ちゃんがいてくれて助かったよ…と本音を吐く太目のメンバーもいた。

この氷河スキーは、もちろん氷河上なので危険を伴うが、山岳ガイド達はどこにクレバスがあるかを非常に正確に知り尽くしており、彼らに従っていればリスクはほとんどない。危険地帯を通り過ぎると、ロッカン小屋でランチ！さすがフランス、固いことは言わない。お客も、ガイドも、名物のチーズ料理に赤ワインを引っかける。(笑)

ランチの後は、なだらかなクレバスのない斜面に入り、最後モンタンベールの電車乗り場付近へ。そこからはスキーを担いで登る事20分。山ちゃん、のぼりは早い！！(笑) 上りきったところから、鋭い天に向けて突き上げているようなドリユウがよく見える。最後森の中をシャモニーまで滑走であった。無事到着16時。

山ちゃんは、『一生の中で貴重な忘れられない一日』となったと語った。

皆と別れ際に、彼は、いろんな人にスキー道具を買い換えるべきだと指摘されていた。日本的な古い風習を一掃して、新しく改良され続けているスキー道具を進んで取り入れ、山スキーの概念を新たに頭に叩き込んだ山ちゃんであった。お疲れ様、そして、楽しい時をありがとう。次回はもうちょっと難しいコース一緒に行こうねえ！

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

日本からメールが届いた。

心にジーンときた。それ程に山ちゃんは魂に深く感じるものがあったのか…と思うと感無量になった。

そして、そんな風に思ってくれる友達がいることのありがたさを深く感じた。

由紀ちゃん

元気ですか？そしてアランさんも？

最近ようやく元気を取り戻しました。帰国早々は、あまりにもスイスでの山スキーが楽しかった事もあるって、その反動からくる心の空しさを覚え、大いに苦しみました。頭の中はまだスイスの事で支配されています。

平 真里



大谷ヒュッテはまだ

日程:2010年2月20日～21日

山域:妙高山

メンバー:初鹿、市瀬、平

2010年2月20日(土)曇り時々雪

赤倉観光スキー場13:30-妙高スカイケーブル山頂-18:00大谷ヒュッテ

朝、井荻より出発。妙高までの道のりは長い。スキー場の駐車場に着いたのはすでに昼もまわっていた。スカイケーブルに乗車しラクして高度を稼ぐ。

上に着くと、私はわかんて、2人はスキー板を履いてゲレンデの端を歩き始める。樹林のなかの登山道らしきところを歩くが、いった

ん沢を越えるところで、道がわからなくなった。沢を詰めてゆくが、渡れなくなりそうなので、反対岸が道っぽく見えたところ(実際は、たぶん違っている)で、結構な斜面を下り、反対岸に登る。登りで滑り落ちて、やり直し。仕方ないのでアイゼンに履き替えて登る。スキー隊は板を外して、先にスキー靴で登っていた。

雪がちらついてきた。その後も樹林の中の急な登り。ここは荷物の軽い私がアイゼンを効かせて先に歩く。斜度が増して、スキーは履



ヒュッテのトイレと市瀬さん

けない。ちょっと平坦な場所に出たら、先行者の滑った後があった。ここで、2人のスキーヤーは板を装着。

トラバース道には、ところどころ赤テープが見える。道を確認しながら、なおも樹林帯を進むと、やっと開けた場所に出た。南側の林道から上がる道との合流が近いのか。ここまで、雪が深いためか思ったよりも時間がかかっている。ヒュッテまで辿りつけるか怪しくなってきた。

初鹿さん先頭でがしがし進む。足元不如意な私はいちばん後ろ。斜度はないのだからいっこうに進まない。もう日が暮れようというころ、小屋発見の報。すでに視界から消えていた市瀬さんのコール。「あへ」って言ってみてー」だって。会のコールを何とか使わせたかったらしい。---いままで気恥ずかしくて言ったことがなかったつけ。

大谷ヒュッテには誰もいなかった。2階立てのまだ木も新しそうなきれいな小屋。1階に荷物を置き、2階にあがって寝具を借りる。外に

はトイレもあり。暖かくして酒宴と夕飯に突入。明日は、ここに荷物も置いて、らくらく登れるはずである。適当に切り上げて、就寝。

2月21日(日)晴れ

06:30大谷ヒュッテ-11:30妙高山山頂-16:00妙高スカイケーブル山頂-スキー場駐車場

4時過ぎに起きると、星が輝いていた。きょうは晴れだ。朝食を済まし、寝具の片付けなどして、出発の準備。持ってゆかない荷物を、すべて1階に下ろして掃除。

早くも日の出。目の前の頂をめざして蛇行を繰り返しながら登る。彼方に見える噴煙の方からは、温泉の匂いがする。振り返るとだんだんヒュッテが小さくなっていく。早朝の雪景色を楽しみながら、登りと休憩を繰り返す。

気分は良いのだが、地図を見ると、昨日と同様、いっこうに進んでいないらしい。本当に山頂に行けるのか？途中で引き返すかも、という不安がちらつき始める。諦めもつかないまま登り続け、露出した岩場が現れたところで、



妙高めざして出発

2人がスキー板をデポした。

取り付けそうな場所を求めて行ったり来たりして、岩場にかかる。なるべく灌木のある方に逃げて、木につかまって登る。1回だけ、木にシュリングをかけて残してもらった。灌木が切れたところで、登山道らしい赤ペンキが塗られた岩を見つけた。そこからは、普通の岩場歩きで山頂。しかし、さらに先にもピークがある。地図をみるととりあえず、こちらの方の標高が高いのでよしとした。11時をまわってもう時間もない。

証拠写真を撮影して、ちょっと休憩。下山にかかる。登山道のペンキが切れたあとは、来た道を引き返すのはやめて、雪面を後ろ向きに下る。岩がないぶんだけ早いのか。スキー板のデポ地に到着。大谷ヒュッテを目指す。

ヒュッテに着いたのは2時くらい。ここから歩いて、スカイケーブルの4時すぎの最終に私は乗らなければならない。荷物を撤収して下りにかかる。途中、2,3のスキーヤーと出くわ

した。滑った跡だらけだ。滑る2人を視界に入れながら、せかせかと歩いて下る。

来るときに難儀した沢に出た。もっと下に道らしいところがあることを期待して、沢沿いの赤テープを追いかけるが、違う下山路を辿りそうになる。仕方ないので、諦めて沢を渡りにかかる。やはり急で、わかんはアイゼンに履き替え、下れそうなところを選んで、大きく右に左にまわる。そして登り返し。

先を急ぐあまり、後ろを歩いていた市瀬さんの姿が見えなくなった。名前を呼ぶが返事がない。仕方なく「あへ〜」って言ったら、同じコールが返ってきた。心配のし甲斐がない。

スキー場の脇に出たところで、私1人一目散にケーブルの山頂駅目指して先に下った。最終の10分くらい前に着いて、誰も乗らないケーブルの下りに乗ったのだった。めでたしめでたし。

雪のバリエーション 2010 その2 一ノ倉尾根

市瀬 江利子



山域：谷川岳
日程：2010年3月13日(土)–15(月)
1/25000地図：茂倉岳、水上
メンバー：小堀和貴、市瀬江利子

前に懸垂岩まで登っておきながら敗退してしまった一ノ倉尾根は、いつかは行っておかないと、と冬になる度に心に引っかかっていたルート。今回小堀さんが一緒に行ってくれることになり、なんとしても登りきりたかった。結果、素晴らしい今年の一本になって、心底嬉しい。これでなにか自分の中で一区切りつきました。

2010/03/13

ロープウェイ駐車場(11:00)–出合小屋 (12:00)

前日は、茂倉の北西尾根を登る予定の、はっちゃん、山ちゃん、平ちゃんパーティと土合の駅に泊まる。今日の天気予報は悪い。本番は明日、今日は出合小屋までと決め込んで、ゆっくり出発する。ロープウェイ駐車場で準備をしつつ、空の様子を伺う。雨がぱらついている。多少小降りになったころ、とりあえず出発してみる。と、登山指導センターで、既に一ノ倉で写真を撮り終えた岡さんと出会う。ここで会えたのが運のつきで、私たちの重装備を見て、大変だぞ、と心配する岡さんが、なんと明日、出合小屋で、デポ品を回収してくれることになった。はっきりいって、

重荷のままで行っていたら、たぶん相当大変な目にあっていたと思う。岡さんには本当に感謝です。

出合い小屋には、NHKの取材用の機材や食料の入ったボックス、ごみ等が置かれていた。廣川健太郎氏の取材で使用したらしい。空も多少明るくなってきたので、とりあえず、空身で明日の偵察に出かける。衝立前々沢や、衝立前沢あたりが既に底雪崩で、土の斜面が見えている。今年は雪が少ないのかもしれない。衝立前沢を過ぎて最初の尾根にトレースがあり、ここから取り付く。ある程度登ってみて、トレースが続いていることを確認したうえで、小屋に戻る。明日は12時半起き、2時出として、6時には寝ることにする。その前に、いらないものを仕分ける。基本、明日中に抜けて、駐車場に戻るつもりなので、寝袋、テント、テントシューズ、ガス、食料も予備食だけにしたため、二人分のデポ品は相当な量になった。岡さんごめんなさい、といいつつ、部屋の片隅に置く。6時には床に就くが、普段こんな時間に寝ることもなく、今日はたいした運動もしていないので、寝付けない。結局ラジオを聴いているうちに、11時頃、やっと眠りにつく。



第一岩峰上の岩稜帯



懸垂岩で突然ガスが晴れてくる



懸垂岩から見た一ノ倉尾根

2010/03/14

出合小屋 (2:00)–第一岩峰(6:00)–懸垂岩基部 (10:40)–一ノ倉頂上(17:30)–肩の小屋(19:30)

寝たのだから寝てないのだからよくわからないうちに時間になってしまった。ラーメンを食べ準備して出発。昨晚のうちに2–3cmの積雪があったようで、まだ雪がちらついている。天気予報では今日の昼前には晴れるはずなので、それほど天気の心配はしていない。昨日つけたトレースを辿って暗い尾根を登っていく。ガスっていて辺りは見えないが、両側の雪壁の傾斜が増し、尾根はどんどん狭くなっていく。上部は尾根上の雪が落ちそうになっていた。これ以上、時期が遅くなるとやばい感じだ。ブッシュを掴んだりして登っているうちに、トレースは尾根を外れて右に捲くように進んでいく。結構な傾斜になり、ピッケルとバイルをしっかりと効かせて氷化した雪壁を登っていく。一向に天気が良くなる兆しがない。前方に真っ黒な岩壁が見える気がすると言っているうちに、ルンゼへと吸い込まれていく。私たちの登った尾根がどうやら第一岩峰の左のルンゼ脇に吸い込まれているようだ。1ピッチ程登ったところで、だんだんと地平線が明るくなり、足下の傾斜が見えてきた。これは落ちたらちょっとやばいかもと、ルンゼ脇に移動し、木を支点にザイルを出す。小堀さん、私、小堀さんとここから3ピッチ。1ピッチ目、小堀さ

んが上部のブッシュで確保を取り、次に、私が確保地点から雪壁をトラバースしようと、硬い氷を横に蹴りこみステップを数歩進めたとき、右足に引き付けて蹴った左足のアイゼンの前爪が右足のアイゼンの横の隙間に入り、抜けなくなってしまった。すぐに抜けるかと思いきや、思い切り蹴りこんでいるので、硬くはまってしまっている。一瞬どきっとする。腕だけの力で体重を支え、思い切り後ろに引き抜き、ようやく抜けたが、冷や汗をかいた。2ピッチ目も下から見ると、なんてことなさそうだったが、上部の狭くなった部分が立っていて、おまけに氷化していて悪い。アイゼンを蹴りこみなんとか抜けるがここでザイルいっぱいになり、アックスでの確保となる。3ピッチ目でブッシュ交じりのリッジへと出る。ここから、1ピッチ伸ばした後は、コンテで支点を取りながら進んでいく。懸垂岩の下2ピッチはスタカットで。以前ビバークした懸垂岩の一段下は、確か座ってのビバークがやっとの斜面で、支点到確保を取り、震えながら夜明けを待った記憶があるが、今回行ってみると、かなり広いスペースがあり、昨日入った2パーティが、ここと、2–3m下のリッジ上に泊まった形跡があった。懸垂岩直下はスペースがないので、小堀さんには下であぶみの準備をして登ってきてもらう。ここまで来ると、今まで降っていた雪が止み、視界が開け、突然青空になる。懸垂岩を登るのは絶好の天気となり、小堀さんリードで登っていく。



懸垂岩を登る小堀さん



上部のトラバース

懸垂岩は上部の右から左へのトラバース部分が、次の支点に手が届かず苦労する。そして最後の抜けるところも、やはり一手が無く苦労した。荷物が軽くて本当に助かった。この上の1ピッチも小堀さんリード。ここは直上して登っていくが、左のバンドに出るところが嫌らしく、またその上の岩場からルンゼに出る部分は、三手目の最後の一手がどうしても届かない。なんとか飛びついて取っても、懸垂岩で疲労した手で体を引き上げられない。何度か試して、どうにもならず、「登れないじゃん」と独り言を言ってみる。なかなかロープが上に上がらないので、小堀さんが何か叫んでいる。「登れないんですー」と言ってみるが、声が届いていないようだ。「登るしかないじゃん」とまた自分に言い聞かせ、苦肉の策で、もう一度あぶみを取り出し、唯一あった、ハ

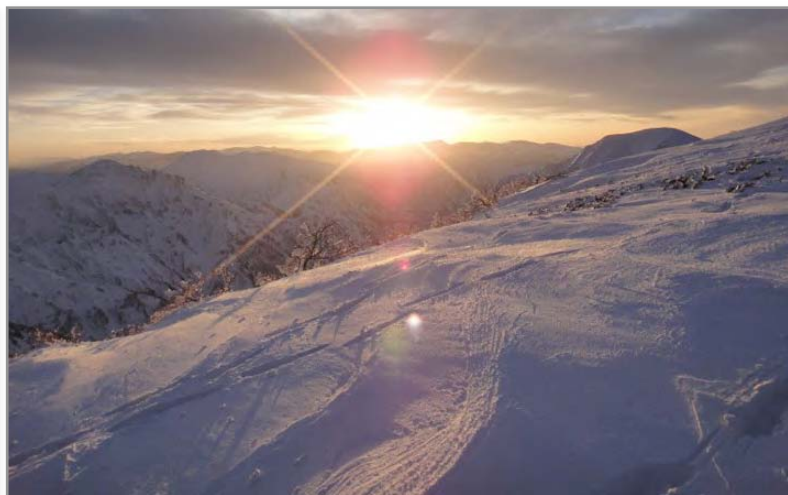
ーケンにあぶみをかけ、フィフィをかけ、手の力を温存し、一気に上った。この後、雪の詰まったルンゼから、雪稜、岩稜をコンテで進み、ようやく3ルンゼへ。ここは急だが、落ちることはなさそう。ここでザイルを解くことにし、夕暮れの迫る3ルンゼを登っていく。5ルンゼの頭まで出ると、後は雪稜を頂上へと登っていく。

国境稜線へ出ると、日が山の陰に沈もうとしていた。凍てつく静寂の中、私たち以外には誰もいない。登り終わった後のこんな景色がたまらなく好きだ。やっと登り終えた充実感。とてもロープウェイの時間には間に合わないけど。握手を交わし、お互いに記念写真を撮る。

明日までお休みを取っているの、今日は肩の小屋に泊まることに。ここから先、意外と長い。



5ルンゼの頭への登り



国境稜線から見た夕日



満足です



記念撮影

オキの耳、トマの耳を通過したと思い、肩の小屋を探すが、どこにも見当たらない。何度も行ったり来たりするが、見当たらない。まだ先ではないかと行ってみるが、登りにさしかかり、そんなはずはないと戻り、とりあえず、トマの耳まで登り返してみる。何かおかしい。念のため、頂上の標識を少し掘ってみるとなんと「オ」という字が出てきた。そうか、まだオキの耳だったのか。最後にこんなおまけまでついて、やっと肩の小屋へ。明日は月曜ということもあり、誰もいない、まだ新しい小屋の中は快適だった。ウイスキーをちびちび飲みながら、予備食のスープなどを飲み、ツェルトを張り、シュラフカバーにもぐる。今回

初めて、前に救助訓練でもらった、アルミ箔？のビバークシートを体に捲いてみた。少しは暖かったような、気もするが、やはり明け方は寒く、途中で起きて、何度か火を焚きながら眠る。うつらうつらしながら、ゆっくりの起床。誰もいない谷川をのんびりと天神平へと下ったのでした。平日の天神平は、貸切で滑るスキーヤーが気持ち良さそうにシュプールを描いていました。



夕暮れの中のトマの耳

北原 浩平



(日時)2010年3月22日(月)
(メンバー)北原・佐藤
(日程)22日:09:05中の湯→13:20山頂→大
正池下流の橋15:15→16:15中の湯

焼岳はカールが素晴らしい。アイゼンとピッケルで、北峰山頂を踏んだ。
噴煙口がまじかにあり、なかなかの迫力。そして360度の絶景。
10数人の先行パーティがいたが、
そのカールに佐藤さんとファーストトラックを刻むことが出来た。
帰りの渋滞もなんのその、充実した山行でした。



霞沢岳と佐藤さん



焼岳噴煙口



ファーストトラック

雪のバリエーション 2010 その3

杓子尾根 (残雪期)

市瀬 江利子



山域：北ア 杓子岳
 日程：2010年4月24日(土)～25(日)
 1/25000地図：白馬町
 メンバー：初鹿 裕康、市瀬 江利子、平 真理

以前、白馬の主稜を登ったときに、杓子に突き上げるこの尾根が、本当に綺麗で、カッコ良く、いつか登ってみたいな、と漠然と思っていた。今回、そのことを思い出し、調べてみると、有名なのは双子尾根で、杓子尾根は、調べてみてもあまり記述が出てこない。なんとなく様子がわからないが、とにかく行ってみることにした。

010/04/24

二股(9:00)～猿倉荘(11:00～11:30)～白馬尻(12:50)～BC(13:15)

杓子尾根の途中で一泊するつもりで白馬尻に向かったが、重荷に嫌気が差し、出発も遅くなったことから、白馬尻の左手の高台にテントを張り、空身で行くことにした。最初は誰もいなかった高台は、夕方までには5-6張のテントが張られ、みんな杓子に行くのかと心配したが、翌日、私達以外は全員、白馬主稜へと向かったようだった。



高台のテン場

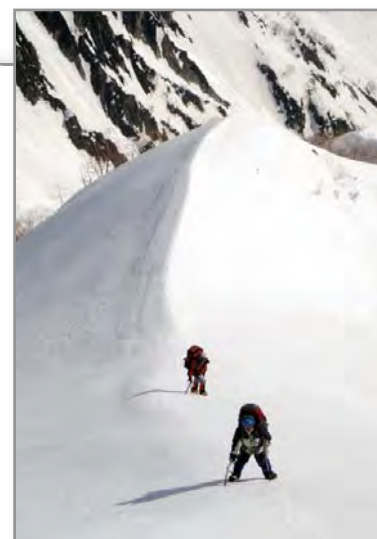
2010/04/25

BC(4:30)～JP(9:30)～杓子岳(10:15)～BC (12:45～14:00)～二股(17:00)

うっすらと明るくなり始めた頃、テントを出発。他のパーティは白馬主稜へと暗いうちに出て行った。だんだんと明るくなっていく中、尾根を辿って行く。尾根はすぐに急になり、ダケカンバも傾斜がついてくる。ずっと同じ斜度の急斜面で、なかなか休憩が取れない。稜線も次第に狭くなる。ブッシュを掴みながら登って行く。一旦、広い稜線へ出るが、その先、



ダケカンバも斜めです。バックは主稜。



素敵な雪稜



最後の雪壁



大雪溪への下り

急な雪壁となり、雪壁を登りきると、後はJPまで素敵なりッジが続いている。リッジの途中で休憩していた時、うっかり持っていた羽毛服の上着を落としてしまった。羽毛服はあつというまに、するすると落ちて行き、そして見えなくなった。

今日は雪の条件が良く、さくさくと登れる。右には白馬主稜が見えるこの尾根は、本当に素晴らしい尾根で、なぜあまり登られていないのかが不思議だ。もしかしたら、今年は雪が多く、すごく良い条件だったが、通常、下部はブッシュ交じりらしく、シュレントももっと開いているのかもしれない。

JPまで来ると、あとはほんの少しだ。一箇所、大雪溪側に雪壁を巻く箇所があり、下までスパッと落ちており、雪が硬く、急だったので、ここはザイルを出したほうが良かったかもしれない。ここを過ぎると、後は、ちょっと岩場を交えての登りで頂上直下。頂上までは立った雪壁を登ってすぐだった。

大雪溪への下りは、どこかすぐに降りられる箇所があればと思っていたが、大分急だったので、結局、頂上宿舎手前のコルから下った。

少し急だったので、最初バックステップで降りる。平ちゃんはこの大雪溪の下りが苦手だったようで、かなり慎重に降りていて、下から見ていても、歩みが遅々として進まなかった。ここが、本日一番の難関だったと言っていました。

快晴の中、BCまで戻り、紅茶を飲みつつ、テントをたたんで、猿倉、二股へと向かう。途中、山スキーパーティの山ちゃんたちから連絡が無かったので、まだ降りていないのかなあと心配するが、車に戻ると既に温泉に行ってますの張り紙があった。

今回は二日間とも天気に恵まれ、杓子尾根は大当たりの雪稜でした。こういったマイナールートは登られていないのには、登られていないだけの理由があるものですが、今回は、痛い目にあったりするのですが、今回は、本当に素晴らしかった。平ちゃんに少しでも雪稜の魅力をわかってもらえれば嬉しいです。

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U — 杓子岳杓子尾根の巻 —

初鹿 裕康



【コースタイム】

4/24 晴 二股(9:07)ー猿倉(10:47)(11:07)ー白馬尻(12:56)

4/25 晴 (4:39)ーJP(9:08)(9:20)ー杓子岳(10:08)ー大雪溪(11:19)ー白馬尻(13:30)(14:43)ー猿倉(15:27)(15:38)ー二股(16:50)

【パーティ】初鹿 裕康、市瀬 江利子、平 真里

二股からゲートが開いているかもしれないなんていう、淡い期待もむなく、がっちりとゲートは閉まっている。アスファルトを歩くのは、むなしいが、その分山の中は空いているのがうれしい。山スキーで入る山ちゃんと北原さんの5人でのんびりと歩く。猿倉の山荘はトイレは使えるがオープンは28日かららしい。ここで山ちゃんパーティと別れる。山ちゃんたちは双子尾根から上がって杓子沢を滑るとか。肝心なところは双子尾根の登りだよなきつと。

我々は白馬尻に向かって歩く。本当は2200m位でテントを張ろうと思っていたが、重荷を持って歩くより明日空荷でどんどん行くほうがいい、ということに意見がまとまる。今日早く寝て、明日は早く起きよう。白馬尻のちょっと上の台地にテントを張る。こんなところにテントを張る奴なんかいないだろうと思っていたが、全部で5張位のテントが集結していた。結構みんな近くに張っているが、うっとうしいので我々は周りに人がテントを張れそうもない場所を選ぶ。

翌日2時半起き。明るくなる頃に出発。他の

パーティは、ほぼ全部白馬主稜らしい。杓子尾根行くようなモノ好きがいないのか、白馬主稜しか脳がないのか(削除してください)。ってことで、杓子尾根貸切です。テン場から休むことなく高度を稼ぐ(休めるようなところがない)。荷物があつたら、やっぱりしんどかったなあ。2200mのテント適地も、それほど適地って感じではなく、ここに泊まるとしたらスコップ必携だな。JPまでは1ヶ所土の出ているところもあったが、ほぼ全部素敵な雪稜って感じで気持ちいい。双子尾根方面からは4人パーティが2隊ほど登ってきていた。山ちゃんたちの姿はない。JPからは傾斜が強くなるが、ダブルアックスで登っていく。頂上直下は結構急傾斜だがザイルも出さずに、登ってしまった(若干右寄りに登れば、落ちてても止まりそうだったので)。ヘルメットもザックにつけたままだった(ダメじゃん)。初心者がいたり荷物が重かったりしたら、ザイル出さなきゃ。やばいところは、ここくらいかな。本当に最後の急斜面も2、3歩上ると杓子の頂上の標識が見えた。結局山ちゃんたちは見当たらず、まあ、ダブルアックスじゃないと厳しいだろうな、



今回の感じだと。確か昔も双子尾根、板持って登った時は、ダブルアックスだったと思う。

さて下降。どっか適当に沢を降りようかとも思ったが、よく研究してこなかったので、大雪溪まで回る。多少急なところからバックステップでショートカットして下ったりしたが、平ちゃん慎重の上に慎重なので、全く降りてこない。バックステップする場合前向きより早く降りなきゃいかんでしょ。まあ雪山の歩行は経験を一杯積むしかないよね。いろんな雪質があるからね。結局2時間ほどかかってテ

ン場に戻る。天気がいいのでゆっくりと日向ぼっこ？？しながら撤収。ここからの下りも長いけど、猿倉に人が一杯いるよりいいなあ。帰りの林道のショートカットで平ちゃん滑落するも無事。アイゼンつけない山歩きも経験だね。

白馬尻のテン場に5張もテントがあつたので、「ゲッ、みんな杓子尾根」って思ったけど、結局我々の貸し切りでした。景色も天気も抜群でした。イヤー、今シーズン久しぶりの快晴だったねえ。



平 真里



日程:2010年4月24日～25日
山域:北ア・白馬岳
メンバー:市瀬、初鹿、平

2010年4月24日(土)晴れ

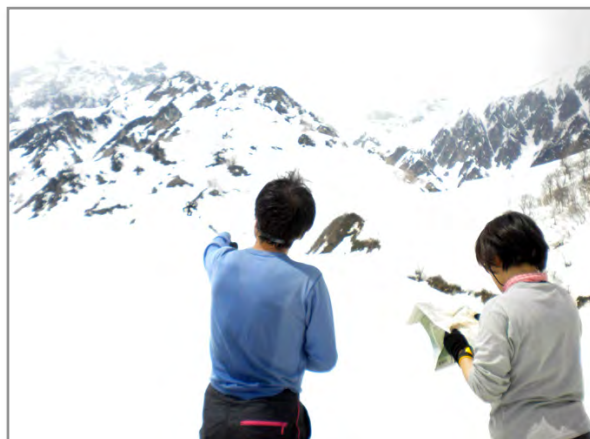
09:00二俣駐車場-11:00猿倉荘-13:30白馬尻

前夜発、信濃大町近辺でスキー隊とともに天幕。起床後、二俣までさらに車で移動して、ここから歩き。雪はまったくないが、二俣のゲートが閉まっていた。車はわりと多い。アスファルト道をゆっくり歩いていると、途中、2,3パーティと遭遇。ヘルメットを持っていたので、白馬岳主稜に登ると思われた。

猿倉荘でひと休み。ここで双子尾根に向うスキー隊とお別れ。小屋の脇から雪道。沢沿いのトレースを辿る。当初予定していた小蓮華尾根はかなり雪が溶けて、ヤブになっていた。

白馬尻に到着。適当な幕営地を探していると、後から続々と人がくる。みんな杓子尾根だったかどうか？(そんなわけないけど)などと言いながら、白馬岳主稜がよく見えるところにテントを張った。まだ時間は早い。本当は、荷物を背負って、さらに先まで行く予定だっ

たのだ。明日は早出して空身で抜けることにしたので、のんびりする。いつものように、宴が始まるが、明日に備えて、早めの就寝となった。



明日のルートはどこ？



休憩中です

2010年4月25日(日)晴れ

04:30白馬尻-09:00JP-10:00杓子岳山頂-11:30白馬大雪渓上-13:30白馬尻(テント撤収、休憩)14:30-17:00二俣駐車場

2時半起床。朝食を済まし、出発の準備をしていると、まわりのテントからは、次々と人が主稜に向けて出発していった。4時半ともなるとすっかり明るい。快晴。予想通り、杓子尾根に向う人は誰もいない。アイゼンをつけて登りにかかる。アイゼンがよく効いて登りやすい。ところどころに土が出て藪になる。

傾斜が急になってきたところで、バイルをもう1本出した。「大先輩がザイル持ってくれてるって」と市瀬さんが言ってくれたので、遠慮なく「大先輩よろしく」と言ってザイルを初鹿さんに渡した。(ザイルは3人で1本を持参していた。)荷物が軽くなったので、市瀬さんの後を離れないよう、追いかける。次々と現れる

リッジ上を歩くのが楽しい。市瀬さんの足取りはますます軽くなってしまい、全然追いつけなかった。

JPで休憩。この前にテントを張れるような場所は、わずか1張りぶんくらい。双子尾根にも人が見える。ここからはトレースがあった。バイルの先端を打ち込んで、夢中で登っていたら、氷の壁になっていた。怖いのを押し殺し、腕も足も振り回して、息を切らしながら登る。「ザイル出そうか〜」市瀬さんの声が頭上から降ってきた。「大丈夫です」(ここでザイル出されても、場所が際どすぎて付けられないんですけど...)。壁を越したところで、異議申し立て。「あそこでザイル出されても、付けられないですよ。第一、ザイル持ってる初鹿さんは後ろにいるじゃないですか。」と私。「はっちゃん後ろについてたし、出せるかなと思って。平ちゃん、ザイル欲しそうな顔してたから」と市瀬さん。ただ言ってみただけなのか。



まだ穏やかな斜面

白馬岳に続く稜線に出たと思われたのに、杓子岳の山頂が見当たらない。左手に向うトレースが消えていて、どうもちょっと被った氷を乗っ越すらしい。数歩あがるとすぐ先に、杓子岳の標識が見えた。杓子岳山頂で証拠写真撮影。白馬岳への縦走コースでここは通らないようだ。

方向転換して、白馬岳方向に歩く。いったん急降下したと思ったら、また登り。雪は一部、風で吹き飛ばされていて、土と氷が混じる。頂上宿舎を間近に白馬大雪溪に入る。

上部は傾斜が急で、後ろ向きで下り。要領を得ないと、怖いので大幅に遅れをとる。トレースはそこらじゅうにあった。時折、スノーボードの人、スキーの人が横を滑り降りた。陽射しは容赦なく照りつけ、後ろ向きで下っても稜線はいつこうに遠ざからない。今回の山行で、(私だけの)核心だった。時に、立ち止まって待っていた2人も、傾斜が緩くなるといつの

間にか消えた。

右手樹林にテントがいく張りか見え出すと、いちばん下のテントから合図があった。テント場に戻って、撤収。のんびりお茶などして、きょうの楽しい雪稜歩きを思い返した。

あとは荷物を背負って来た道に戻るのみ。猿倉荘から二俣の駐車場までの車道歩きが非乗に長く感じられたが、17時前に着いた。信濃大町の温泉で汗を流し、帰途についた。

白馬杓子岳

JP から長走沢 [山岳スキー]

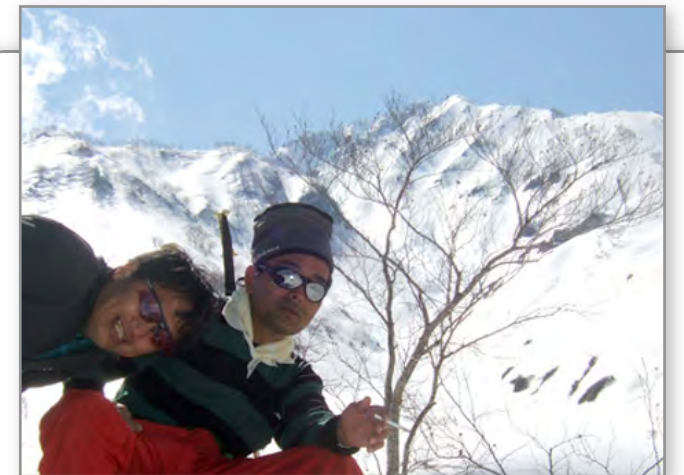
Primula 80

北原 浩平

(日時)2009年4月24～25日(土～日)

(メンバー)北原・山里

(日程) 25日:07:20猿倉台地bc→09:40樺平10:00→12:00JP13:00→13:35猿倉bc

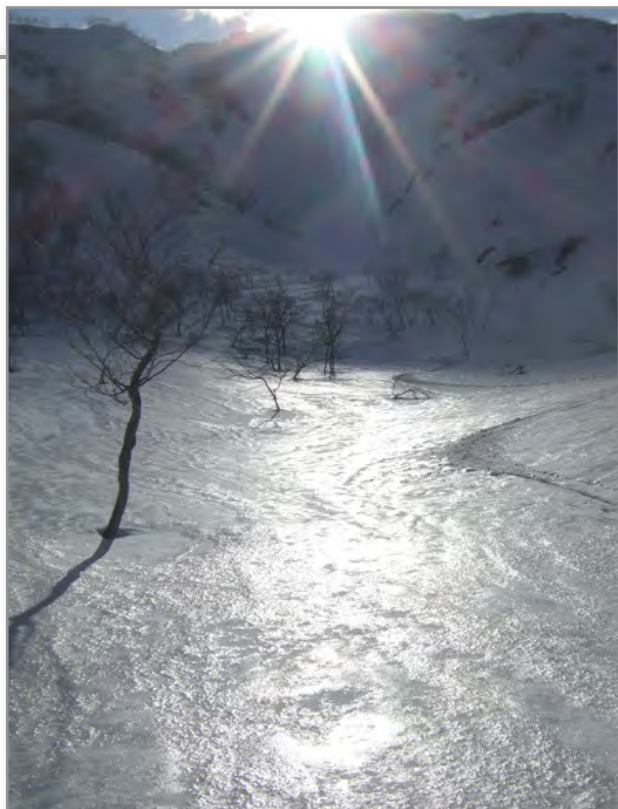


JP直下で下りパーティとすれ違う。彼らはロープを張っていた。

12時にJPに着いたが、下りパーティを雪崩に巻き込みたくなかったので、1時間ほど待機した。初めは杓子沢を下り、途中から長走沢へトラバースしようとしたが、ワントーンが硬かったので諦めた。



さあ行くぞ



JPから双子と杓子尾根の合流地点まで、カニ歩きで下り、ドロップイン。

クラストした雪面が砕け、氷のチップとなって落ちて行く。

山ちゃん、2ターン目で尻もちをついた。でも落ちなかった。

出だしはかなりの緊張を強いられたが、標高差1100mを35分で滑りおりた。

満足です。自分はこんなルートが好きなのだと改めて感じた。

山岳スキークのオンサイト・フリーソロ。

bc での日の入り



杓子沢



山ちゃんが滑る



我々だけが滑ってる



長走沢全景



滑り終えて

雪のバリエーション 2010 その4 小窓尾根～早月尾根 (残雪期)

Primula 80

市瀬 江利子

山域: 北ア 劔岳

日程: 2010年5月1日(土)～4(火)

1/25000地図: 劔岳

メンバー: 初鹿裕康、市瀬江利子



早月小屋から見た小窓尾根&猫の耳

昨年のGWは赤谷尾根から劔を経て、はしご段乗越しから黒部ダムに抜けた。今年はどこに行こうかと言う話になった時、劔以外に考えつかない。あの厳しさと大きさに一度魅了されてしまうと、なかなか離れられなくなってしまう。今年は小窓から早月へと抜け、間にチンネを登る計画を立てた。

2010/05/01

馬場島(9:45)～雷岩(12:00)～1800m付近BC(15:30)

高速をひたすら走り、馬場島に着いたのは3時半。思ったより早く着いた。ヘリポートの脇に車を止め仮眠。8時頃まで寝てしまい、準備をしているうちに、登山者はほぼ出発し、辺りは静かになる。そこへ救助隊のパトカーが来て、二人の救助隊員が車から降りてきた。無線で話している声が聞こえる。「池の谷右俣…2500m付近…男性…動かない」などの言葉が聞こえてくる。遭難したらしい。二人の隊員は靴を履き替え、スコップはいらないな、等と話しながら、ヘリポート方面へ。暫くすると、ヘ

リコプターが飛んでくる。お店を広げて準備をしていた私たちは、隊員の一人に、飛びそうなものは中に入れてくださいと言われる。ヘリコプターは一人の隊員を乗せて飛び立つ。またもとの静寂に。間もなくすると、またヘリコプターが飛んできて、もう一人の隊員を乗せて飛び立った。池の谷右俣ってことは、劔尾根かな、と話しながら、そろそろ出発の準備も整ったところ、またヘリコプターが来る。ヘリコプターの脇には、シートで包まれた遺体が吊り下げられていた。ヘリコプターは着陸すると、遺体を地面に置き、その脇に遺留品と思われる小さなザックを置いてまた飛び立った。日差しが眩しいのどかなこの場所に、私達と遺体だけが残された。不思議な感じだった。最初私たちは、前に遭難した人なのかと思ったが、後日、早月を登っていた3人パーティのうち一人が雪崩で滑落したことを知った。死ってこんな感じなんだ。のどかで、鳥が鳴いているのに、そこに無言でいる。日常からかけ離れていて、不思議な感覚だった。その後、ヘリコプターは隊員二人を降ろして、また飛び立った。隊員は遺体を取りあえずそのままにして、



雷岩から尾根への登り

立ち去った。

私たちも、重い荷物をやっと背中に担ぎ、出発することにする。今回も前回同様、チンネに登るつもりで、ザイル2本、あぶみ1セット、ラバーソールを持っている。念のためアイスクリューも忍ばせてある。今年は雪が多そうなので、ラバーソールは無理かなと話すが、今回はアイゼンでも登る気合で出かけた。昨年と同じように白萩川を渡り、川に沿って林道に行く。今年は間違いなく雪が多い。去年この辺りは雪が無かったはずだが、まだたっぷりとある。堰堤の手前を川原に降り、石伝いに渡渉する。左岸へ渡り、堰堤を越すと、後は雪の上を歩いていく。タカノスワリは高捲く必要があるのかと、覚悟をしていたが、雪が多く、雷岩まで雪渓上を進むことができた。大きな雷岩の横から直上している急なルンゼを40分程登ると、尾根上に出る。尾根は最初のほうは、登山道のような感じだったが、そのうち雪が出てくる。1600m付近に1パーティ、1800m付近に1パーティが幕営していて、私達はそこのちょっと上、やはり1800m付近をテン場とした。

2010/05/02

BC(7:30)-ニードル(10:00)-小窓の頭(15:00)-三の窓BC(17:00)

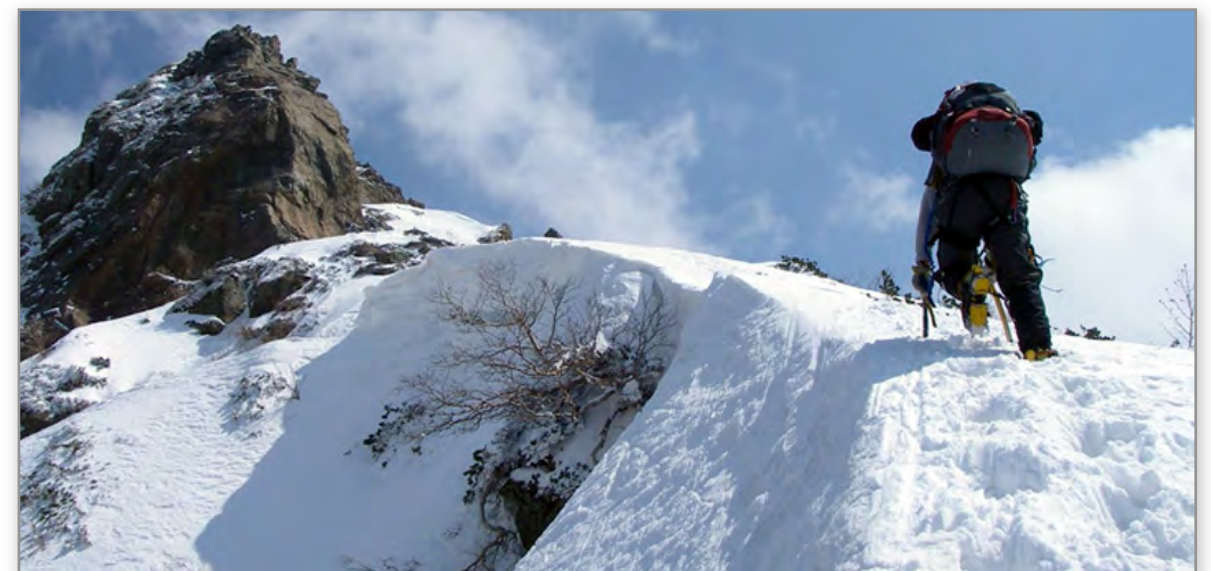
今日は三の窓まで。尾根は暫く行くと痩せてきて、ニードル手前は、池の谷側をブッシュを掴んでの急登。ニードルからは岩場をいったんコルへ降りる。が、ここが下が切れ落ちていて恐ろしい。フィックスロープがついているのだが、細く、重荷では体を支えられそうにない。はっちゃんが降りていったので、私も途中まで行ってみるが、厳しそうなので、懸垂することにし、一旦戻り、ここでハーネスを着ける。すぐ後ろに来ていたベルニナの三人パーティも懸垂をするとのことで、ロープを使用してくださいと声をかけられ、お言葉に甘えて、ロープを使用させてもらう。コルからは仙人谷川の雪壁を登り、ドーム上部へ出る。ピラミッドピークは、雪の着いた岩場をブッシュを掴みながら最初のバンドへ。バンドから一段上への乗越しが、手が無い上に足が高すぎて、乗り込めない。何度かトライするが、やはり、どうしても思い切れず、上にいるはっちゃんにロープを投げてもらう。声を頼りに投げてもらうので、なかなか手元まで降りてこず、5-6回のトライでやっとハーネスに結びつける。上で一旦ザイルを外し、バンドを池の谷側



雪壁と這松帯

に回りこむと、馬の背にたどり着く。馬の背を越したところのルンゼが岩と氷化した雪のミックスで難しく、この手前でザイルを結びはっちゃんリード。一ピッチで上部の雪壁を登りきると、雪稜となる。ここでいったんザイルを外す。このあとすぐに出てきた仙人谷川の急な雪壁では、一昨日積もった雪の下が氷となっていて、蹴りこんでも、アイゼンが刺さらず、苦勞する。ここは谷のほうまで切れ落ちていたので、ザイルが欲しい感じだった。ここを過ぎると、後は雪稜と雪壁をひたすら登り、小窓の頭へと登りきった。この辺りから、ガス

が出てきて視界が利かない。トレースを追って、小窓の王へ。ここより、三の窓へ向かって、ロープ二本使った懸垂。あともう少しで下までつきそうだったが、足元を見ると、私の左のアイゼンが外れ、足にぶら下がっていたので、右側の岩場にあった支点まで行き、ここで切る。次の1ピッチで三の窓下の大岩壁下のテラスまでトラバース。今日の三の窓は、混んでいることが予想され、張る場所が無い場合はこのテラスに張ることにして、はっちゃんが偵察に行く。やはり満員御礼状態らしい。私も見に行くが、テントの隙間にトイレがあった



小窓尾根の雪壁



三の窓から見たチンネ(一番奥)

りと、大変なことになっていたの、このテラスにテントを張ることにした。

はっちゃんの前情報では小窓尾根は、簡単で、ザイルを出すところも無かったとのことだったので、頭の中は既にチンネだったのだが、小窓尾根は氷化した雪の上に、一昨日の雪が積もった状態で、予想に反して難しく、お腹いっぱい状態。チンネを見に行くも、去年よりも雪がびっしり付いており、しかも、青光りして、凍っている状態であることが伺えた。これは、私たちの手に負える代物ではないと察し、明日はチンネには登らず、早月まで降りることにした。

2010/05/03

BC(8:30)-剣岳(11:00-30)-早月尾根分岐(11:45)-早月小屋(15:00)

翌日も快晴。今日は急がなくてもよいので、ゆっくり、ゆっくり景色を楽しみながら歩く。昨年登った池の谷ガリーは、雪がある分、今年は傾斜が緩く感じる。池の谷乗越へ出ると、ハッ峰に登っているパーティが、最後のナイフリッジに登っているところだった。何パー

ティか登ってきている。暫く眺める。そして、ハッ峰はやっぱり登っておきたいと思う。できれば、来年登りたい。

さて、ここから先はナイフリッジをいくつか通り、剣頂上への急雪壁を登り終えると、やっと頂上だ。しかし、去年は見えただけの祠が無く、びっくり。やはり今年は雪が多いのだ。しばし景色を楽しんだあと、下山へ。念願の早月尾根だ。早月尾根は正月に行こうと何度か、はっちゃんに提案したが、前にも行っているため賛同を得たことがない。なので、せめて下りでもいいかと、今回は下りに入れてもらった。

早月尾根上部は岩場だが、ところどころフィックスもあり、要所には懸垂支点が付けられている。おおかたは、懸垂をせず通ったが、一箇所50mの懸垂を交えた。その後もザイルは出さなかったが、一箇所だけあったら良かったと思う場所があった。振り返ると、早月の景色は素晴らしく、こんなところを降りてきたのかと思う。早月小屋では、みなさん日向ぼっこ中。私達もテントを張ると、登ってきたルートを肴にビールで乾杯。ここからは登って



ザイルの欲しかった下り

きた小窓尾根が一望できる。こちらから見ると猫の耳に見えるニードルや、ドームを見ながら、あそこはこう登った、ああした、等とルート談義は楽しい。

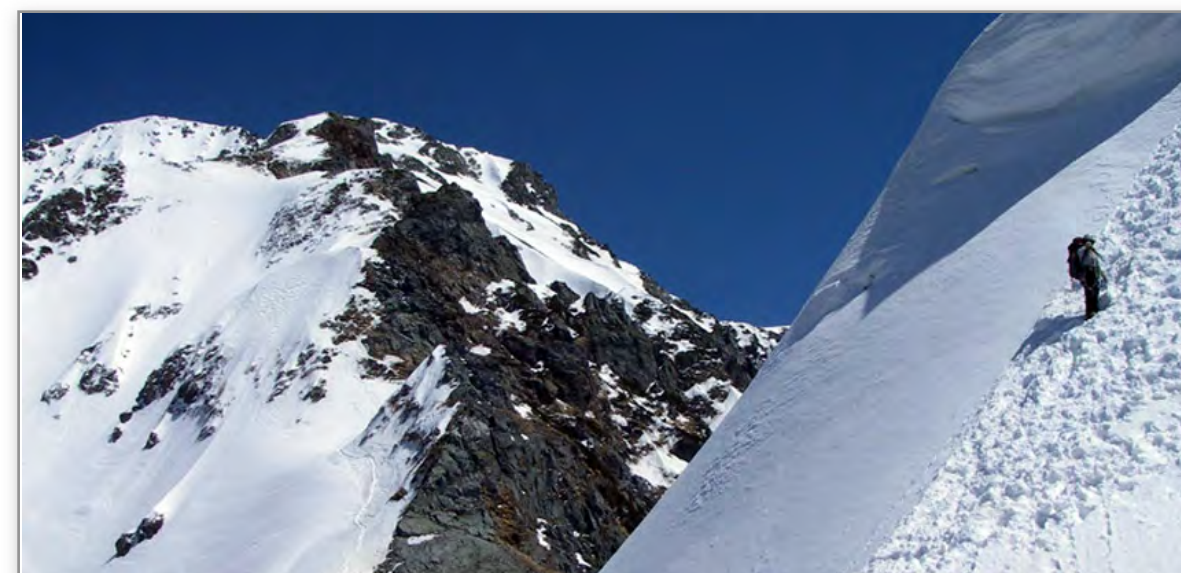
2010/05/04

早月小屋(8:30)-馬場島(12:30)

今日の上部はガスがかかっている。のんびり起きて、ゆっくり準備。景色を名残惜しみながら下山する。途中で、お茶を沸かし、ティータイム。最後の早月を楽しむ。1050m辺りか

らトレースを追って、白萩川方面へ下る。小川を渡渉すると、白萩川の橋手前の林道へと出た。行きにあった雪は跡形も無く、もう初夏の装いだった。

やっぱりいい山だった。スケールの大きさといい、険峻さといい、剣は人を魅了する山だと思う。小窓尾根の途中から見た、剣尾根も今回候補の一つだったのだが、おどろおどろしい感じの尾根で、とりあえずは、まだ命が惜しいので、ずっと先の目標にしておこうと思った。



早月はスケールが大きい

初鹿 裕康



【コースタイム】

5/1 晴 馬場島(10:08)ー林道終点(11:01)ー雷岩(12:12)(12:35)ー尾根上(13:30)(13:54)ー1600m(14:38)ー1860m(15:43)
 5/2 晴 (7:18)ー1990m(7:46)ー2110m(8:39)ーニードル(10:42)ードーム(12:39)ーマツチ箱(15:40)ー三の窓(16:49)
 5/3 晴 (8:58)ー池の谷乗越(9:46)(9:57)ー剣岳(11:25)(11:54)ー早月小屋(15:00)
 5/4 晴 (8:23)ー1600m標識上(9:34)(10:44)ー林道(12:00)ー馬場島(12:28)

【パーティ】初鹿 裕康、市瀬 江利子

キャブちゃん

連休の5日間は晴れ！！という素晴らしい予報の下、馬場島へ向かう。しかし途中から雨。なんでよ〜。滑川のインターを降りて、すぐにコンビニがあるので、ここで色々と購入して馬場島。明日は晴れるかな？

翌日。晴れだが気温は低い。去年の赤谷尾根は暑くて暑くて夏のような感じだったのに。雪も大分残っていて、この様子なら徒渉しなくて済みそうだ。取水口の堰堤の下を飛び石伝いに涉ることが出来る。上部は雪がぎっしり詰まっているので、高巻きすることなく雷岩。ここから、急な雪壁をノーザイルで1時間ほど上がると小窓尾根上に出る。

ここからは、結構急な登りを交えながらも、雪の上を歩いて行けるので気楽だ。3張ほどのテントを横目で見ながら、結局1860m位で幕営。よい天気、春山はこうでなくちゃ。

今日は三の窓まで。お気楽に考えていたが…。ニードルのところで後続に追い付かれる。我々チンネを登ろうなどと、目論んでいるので、ラバーソールなど持っていて荷が重い。ニードルの所は初鹿残置ロープ伝いに下降するが、ERIKOさん怖いらしく、懸垂することに。後続のロープを貸してもらって下降。ドームの登りは雪がちゃんと着いているので、左側を雪壁登り。ドームから下ると馬の背への登りになる。初鹿先行で岩場をクリアするが、落ちるとちょっと怖いのでERIKOにザイルを投げる。抜かれた先行は、馬の背の途中1歩のクライムダウンを苦労している様子。ここでもロープを出す。クライムダウンはたいしたことなかったが、その先が氷化している部分があるのでちょっと危険かも。アイスクライミングばい。途中からガスが出てきてくる。5日間晴れじゃなかったのか？？急な登りをこれでもかと登っていくと、ガスが晴れた瞬間

どどんと小窓王が見えた。三の窓への懸垂は50mと一寸で下に着く。三の窓は盛況で既に十数張テントが張ってあったので、そこをわざわざ整地するのも馬鹿らしいので、懸垂下降した岩の基部に幕営。ここは風もなく快適であった。

今年のチンネは雪が多く、しかもアイスクライミング。とても登れそうもない。IP1時間かかっている模様。去年のほうはまだ取付き易かったかも。今回も無駄に重い荷物を持ってきてしまった。

まあ、天気も良いし明日はのんびり、ゆっくりと下ろう。

池の谷ガリーは雪が多いため、あまり斜度を感じなかったが一部氷化していたりした。ハツ峰の登攀者を横目で見ながら、来年はハツ峰？なんて思う。剣の頂上の祠で証拠写真！！と思ったけど祠もうまっけていて全く見えなかった。今年の剣は3000m超えているね。日本で22番目の3000m峰？？。早月の下降は上部は良かった

が下部で1ヶ所雪が悪く懸垂25m×2p。ガイドだったら全部懸垂だろう(懸垂支点はバッチリある)。天気に恵まれ、のんびりと早月小屋まで。1本800円のビールをたくさん買って、外での宴会となった。

最終日、早月の下り。途中から夏道避け右の谷に下っていく。降りたところにきれいな流れの小川。なんか素敵な場所だった。ガイドはずっと夏道を下っていたので2.3時間は余分にかかっていた。

13年前スキルブルムの遠征前に遠征隊のメンバーで登った(13年前原稿書いたつもりでいたけど、全く書いてなかった！)。あの時の真っ黒なチンネと、大木もろとも全部雪崩でなぎ倒されていた(雪崩でも大丈夫という3本の木を除いて)内蔵助平のことが今でも頭を離れない。

春の黒いチンネ、登れなかったなあ今年も。



北ア：日本オートルート敗退記 [山岳スキー]

北原 浩平



日時)2010年5月1～4日(土～火)

(メンバー)北原・山里

(日程)

1日:12:00室堂→13:00一の越13:30→18:00ザラ峠bp

2日:8:30ザラ峠bp→09:00五色ヶ原手前ピーク09:30→10:00ザラ峠bp→15:30一の越→16:00雷鳥沢bp

3日:bp→雷鳥沢→剣御前小屋→剣沢2回滑降→雷鳥沢→bp

1日は前夜の吹雪の影響で交通機関が遅れ、室堂着が正午、一の越に13時過ぎ。

たちまちガスがかかりルート確認に時間を費やし、18時ザラ峠でビバーク。

ところがテントに入ったら、私のスキー靴のソールがかかとかから三分の一くらい剥離してる。

好天になるから、だましながらツアーを続けるか悩んだけど、



目指す槍と山ちゃん



鬼が岳

もし折れたらスキーもアイゼンも履けなくなり、進退が極まるので断念。

翌日、五色ヶ原へルート確認に登ってから撤退。

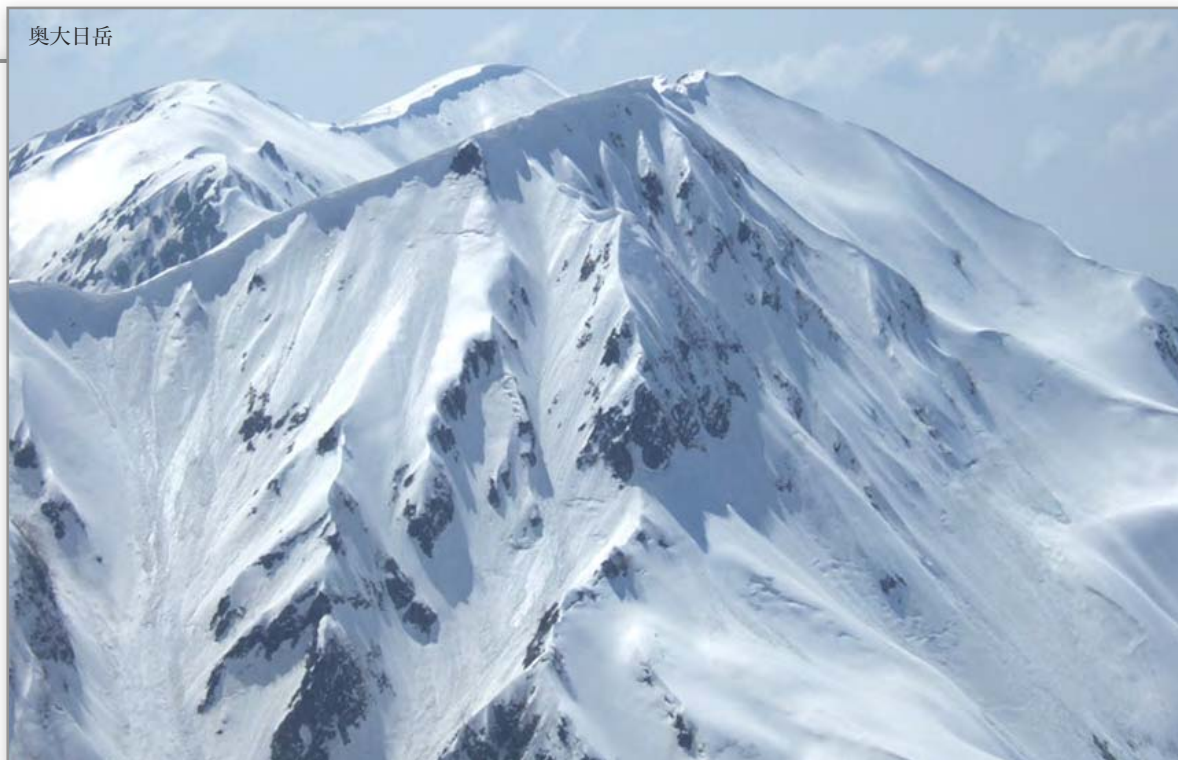
そして雷鳥沢bcで剣沢、雷鳥沢を滑ってきた。

重荷を背負ってのスキー、軽量化、スピード、体力などが課題。



朝焼けの立山

奥大日岳



未知のルートをガスのなか滑るのはとても厳しい。

こちらはまた来年です。



衰れたスキー靴



ここから雷鳥沢を滑る

No.	山行日	山城	ルート	参加者	区分
2699	1 月 1 日	南ア	兎岳笠松尾根	初鹿・山里・市瀬・平	雪山
2700	1/1～3	湯河原	幕岩	水野・他 1	フリー
2701	1/9～11	ハヶ岳	阿弥陀岳南稜	初鹿・市瀬	パリエーション
2702	1/9～10	ハヶ岳	高見石～茶白山～縹枯山	平・他 2	雪山
2703	1 月 9 日	富士	双子山	北原・他 1	山スキー
2704	1/10～11	湯河原	幕岩	水野・他 1	フリー
2705	1/16～17	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
2706	1/16～18	ハヶ岳	中山尾根	初鹿・他	パリエーション
2707	1 月 17 日	中信	根子岳	北原・他 1	山スキー
2708	1 月 17 日	道志	景信山	北原・他 1	ハイク
2709	1 月 23 日	奥武蔵	日和田～物見山	初鹿・山里	岩トレ/ハイク
2710	1 月 30 日	奥武蔵	日和田	初鹿・平	岩トレ
2711	1 月 31 日	ハヶ岳	天狗岳	北原・他 1	雪山
2712	2 月 6 日	道志	高尾山	初鹿・他 1	ハイク
2713	2 月 7 日	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
2714	2 月 7 日	ハヶ岳	阿弥陀岳南稜・青雉まで	岡	撮影山行
2715	2/13～14	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
2716	2 月 13 日	奥武蔵	天覚山～宮沢湖	小堀・初鹿	トレラン
2717	2 月 14 日	ハヶ岳	赤岳西壁主稜	平・他	パリエーション
2718	2 月 14 日	ヨーロッパ	キャトロテッド	山里・他 2	山スキー
2719	2 月 16 日	ヨーロッパ	エギューディミディ～バレプランシュ	山里・他 7	山スキー
2720	2 月 17 日	奥秩父	二子山	水野・他 1	フリー
2721	2/20～21	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
2722	2/20～21	上州	赤城山	岡	撮影山行
2723	2/23～24	上越	谷川岳・一ノ倉沢出合+マナガ沢出合	岡	撮影山行
2724	3 月 3 日	奥秩父	二子山	水野・他 1	フリー
2725	3 月 5 日	奥秩父	二子山	水野・他 1	フリー
2726	3/6～7	北ア	八方尾根	岡・他 12	撮影山行
2727	3 月 11 日	奥秩父	二子山	水野・他 1	フリー
2728	3/13～14	上越	谷川岳・一ノ倉沢出合	岡	撮影山行
2729	3/13～14	伊豆	城ヶ崎	水野・他 1	フリー
2730	3 月 14 日	上越	荒沢山	初鹿・山里・平	雪山
2731	3 月 20 日	東北	鞍掛山	初鹿・山里・市瀬	山スキー
2732	3 月 20 日	伊豆	城ヶ崎	水野・他 1	フリー
2733	3 月 20 日	丹沢	塔ノ岳	平	ハイク
2734	3 月 22 日	北ア	焼岳	北原・佐藤	山スキー
2735	3 月 22 日	伊豆	城ヶ崎	水野・他 1	フリー
2736	3 月 25 日	房総	愛宕山	初鹿・他 5	ハイク
2737	3 月 27 日	伊豆	城ヶ崎	水野・他 1	フリー
2738	3/27～29	北ア	鹿島槍ヶ岳尾根	小堀・初鹿・市瀬	パリエーション
2739	3 月 28 日	上越	谷川岳	北原・佐藤	山スキー
2740	4 月 3 日	佐久	湯川の岩場	水野・他 1	フリー
2741	4 月 3 日	湯河原	幕岩	平・他 1	フリー
2742	4 月 4 日	中央沿線	塩ノ山	初鹿・他 1	ハイク
2743	4 月 10 日	佐久	湯川の岩場	水野・他 2	フリー
2744	4 月 10 日	東北	岩手山	初鹿・市瀬・北原	山スキー
2745	4 月 11 日	奥秩父	小川山	水野・他 2	フリー
2746	4 月 11 日	東北	三石山	初鹿・市瀬・北原	山スキー
2747	4/10～11	奥多摩	雲取山	平	ハイク
2748	4 月 17 日	越後	神楽峰	初鹿・市瀬	山スキー
2749	4 月 18 日	佐久	湯川の岩場	水野・他 1	フリー
2750	4 月 20 日	高尾	高尾山 (3 時間コース)	水野	トレラン
2751	4/24～25	北ア	杓子岳・杓子尾根	初鹿・市瀬・平	パリエーション
2752	4/24～25	北ア	杓子岳・J P	北原・山里	山スキー
2753	4/24～26	上越	谷川岳・天神尾根	岡	撮影山行
2754	4/30～5/4	甲信・奥秩父	甲府幕岩・廻り目平	水野・他 1	フリー
2755	5/1～4	北ア	小窓尾根～劔岳～早月尾根	初鹿・市瀬	パリエーション
2756	5/1～3	北ア	室堂～ザラ峠、五色ヶ原、雷鳥沢～劔沢	北原・山里	山スキー



技術のない人間が体力がなくなってしまうと、山ではただの足手まとい。山だともそっかすにも、ならないもんなあ。
高校時代の根性も体力もない自分には戻りたくないよなあ。ねっ、山ちゃん(*^_^*)(H)



去年の秋から仕事がなく、ない知恵絞って調達した生活資金も底をつく寸前、仕事を頂けることに。あーよかった。ほんとによかった〜。あぶないあぶない。この先も仕事ありそうな気配なので、今年もヨセミテ行けるかも(と、振り出しに戻るM野)

原稿の書き方、送り方について。

1.入稿テキストについて

- ★プレーンテキスト形式をお願いします。
- ★文章中の「数字」「アルファベット」「記号」は半角で入力して下さい。
- ★機種依存文字は使用しないで下さい。(下図参照)これらの記号はWindowsパソコン以外

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

I II III IV V VI VII VIII IX X
i ii iii iv v vi vii viii ix x

ミリ キロ セン メートル トン アー ヘクト リットル
ガ ロドル センバ ミリバ
リ ドル センバ

mm cm km mg kg cc m²
平成 ” Na.K.K. Tel ① ㊦ ㊧ ㊨ ㊩
(株)(有)(代)明治大正昭和
≡ ≡ ∫ ∫ ∑ √ ⊥ ∠ ⊂ ∴ ∩ ∪

機種依存文字

では正しく表示されません。
★コースタイムなどの矢印「→」「⇒」などを使用する場合は書式を統一して使ってください。
また、記号の前後のスペースは入れないでください。こちらで削除するなど手作業で統一しています

- ★本文中に作者の氏名を必ず入れて下さい。
- ★【重要】文章の適当な場所に段落を作って、読みやすく書いて下さい。段落頭の1文字下げはしなくても結構です。(編集時にスタイルシートで制御します)

2.データ送付について

- ★ データのファイル名
- Macで受け取っている都合上、15文字以上のファイル名は判別しません。最小限でお願いします。また、**ファイル名は必ず「半角英数字」**でスペースや「.」「/」「¥」なども使わないでください。日付+名前+ナンバリング+拡張子でよろしくです。
- 例) 090101mizuno.txt
090101mizuno01.jpg
090101mizuno02.jpg

3.写真キャプション

- ★ キャプションは本文中に記述してください。文章のどのへんに入れて欲しいかも、ご指定頂くと助かります。